

評価領域	特色ある教育課程
------	----------

重点目標	地域の特色を生かした教育課程編成と授業改善
------	-----------------------

現 状	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 比内支援学校本分校の共通テーマである「街は大きな教室だ」を合言葉に積極的に地域に出て行き、本物の体験を通して自立と社会参加する力を育てている。</li> <li>2 児童生徒の障がいの多様化が進んでおり、学習指導と生徒指導を両輪にして教育活動を進めている。様々な事情により児童福祉施設の東山学園に入所している児童生徒が17名いる。一人一人の気持ちに寄り添った丁寧な対応が求められている。</li> </ol>
-----	---

具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 鹿角の特産物であるりんごの栽培活動を通して、地域の一員としての自覚をもち、地域に根ざす生活の基盤を培う。</li> <li>2 学校間交流や居住地校交流の充実発展を目指し、相互に成果のある交流活動にする。</li> <li>3 児童生徒の問題行動に関して、組織的に対応する。月1回の生徒個別面談の情報を全体で共有する。</li> <li>4 営農実習や花いっぱい運動、ビルクリーニング等の地域での学習を積極的に展開し、地域との交流の充実を図る。</li> </ol>
--------	--

目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 全校で取り組むりんごの栽培活動を教育課程の柱として位置付け、全校縦割りグループによる活動を年間を通して設定する。4年目となるリンゴレンジャーは、高等部が中心となりながら、小学部がポスター制作、中学部が大道具制作と全校協力体制を敷く。メインのリンゴレンジャーショーを12月に花輪小学校で開催する。</li> <li>2 交流前の出前授業ばかりではなく、交流後のアンケート調査を実施し、評価を分析して次回に生かす。</li> <li>3 発達障害を有し、人間関係形成が難しい生徒に対して月1回程度の個別面談を継続し、問題行動の未然防止や望ましい付き合い方を一緒に考える。</li> <li>4 地域を教室にした学習活動（営農実習やビルクリーニングなど）を定期的・長期的に実施し、地域との交流の深化をねらう。</li> </ol>
------------	---

具体的な取組状況	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 全校縦割り4グループで、花摘み、袋掛け、袋外し、収穫活動を実施した。今年はグループの志気を高めるために旗を作り、りんごランドへの往復でそれぞれ旗を掲げ、意気揚々と出掛けることができた。また、収穫したりんごを今年4月に大災害を被った熊本県の小国支援学校へ寄贈し、たいへん喜ばれた。</li> <li>2 交流及び共同学習を実施した後、相手校児童生徒及び関係の先生方にアンケート調査を初めて行った。双方にとってより成果のある交流にしていくための方策にしていきたい。</li> <li>3 高等部生徒の約8割とほぼ月1回のペースで面談し、問題行動の未然防止に努めた。教師と1対1で話す機会が定期的にあることで、生徒の心の安定につながった。</li> <li>4 営農実習は6月～10月まで、3人の生徒が2か所でのべ20回実施した。</li> </ol>
----------	--

P

D

	花いっぱい運動では地域に約100個のプランターを設置した。ビルクリーニングは地域の商店街や鹿角花輪駅、自治会館の窓ふきを例年同様12回実施した。	
--	--	--

達成状況	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 花輪小学校を会場に開催したリンゴレンジャーショーは、集客数300名のたいへん盛大なショーになった。この公演のために、高等部合同生活単元学習でそれぞれの持ち味を生かして、演者、進行、音響、小道具などのグループ分けをし、ショーの成功に向けて90時間ほどを掛けて準備を進めてきた。観客から大絶賛され、生徒たちにとって、この上ない自信と励みになった。</li> <li>2 学校間交流は6校8回、居住地校交流は13人10校11回という実績であった。居住地校交流は、小・中学部の6割強が実施した。</li> <li>3 生徒との定期的な面談や保護者・学園職員とのケア会議により、状況の早期把握と改善に努め、現在不登校はいなくなった。</li> <li>4 去年は農事組合法人「したかわら」1か所だけであったが、今年は「ファーム夏井」でも営農実習をすることができた。枝豆脱穀に生徒自ら機械を使わせていただき、充足感を得られる実習になった。</li> </ol>	
------	---	--

自己評価	<p>(評価) A</p> <p>(根拠)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・りんごの栽培活動は今年で7年目を迎え、かつの校の教育課程の柱となっている。リンゴレンジャーの地域貢献が進み、知名度が高まってきているので、高等部のみの活動ではなく、学校全体の活動へと発展させ、リンゴレンジャーの学校としてかつの校を売り出していきたい。</li> <li>・地域活動を継続的に展開してきた結果、感謝される体験が増し、生徒自身が自信を得たり、地域からの理解を推進したりすることができた。</li> </ul>	C
------	--	---

学校関係者評価と意見	<p>(評価) A</p> <p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本分校とともに切磋琢磨し合いながら地域活動を積極的に展開しており、新聞報道等でそれを目にする機会が増えたことはたいへん喜ばしいことである。</li> <li>・子どもたちの地域活動の充実は、地域の活性化にもつながり地域の人たちはその姿に元気付けられている。</li> <li>・校長先生をはじめ、本分校の先生方のチームワークがよく、種々の活動を通して児童生徒が確実に成長していることが伺える。これからも手を抜かず継続してほしい。</li> </ul>	C
------------	---	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リンゴレンジャーショーは、いよいよ学校の看板になってきたので、より完成度の高いものにしていくため、じっくり準備をして開催したい。リンゴレンジャーに係る各学部合同の生活単元学習を教育課程の中心に位置付け、年間指導計画の下、見通しをもって指導に当たっていききたい。</li> <li>・次年度は、創立40周年の記念の年である。これまでのかつの校の脈々とした歩みに、新しい時代の求めに応じた「主体的・対話的で深い学び」の視点を加え、子どもたちが確かに自立と社会参加できる人となるよう、地域とともに育つ教育活動を展開していきたい。</li> </ul>	A
-----------------------	--	---